

また、群馬県赤堀茶臼山古墳からは、8個の家形埴輪が発見されています。そのうちの3個が住居、4個が倉庫、1個が納屋であろうと考えられています。そして、これらは豪族の屋敷を模したものでないかと考えられています。



小学館「図説日本文化の歴史」第1巻原始・古代より

272 関東の豪族の邸宅の復原 群馬県の赤堀茶臼山は、全長59mの前方後円墳で、後円部の頂上に形状と大きさの異なる8棟の建物の埴輪が出土した。埴輪の配置に一部不明のところがあるが、中央に大きな母屋があり、それを中心に各棟の建物が配置されていて、全体が秩序の整った豪族の邸宅がしのばれる。埴輪の位置は推定。5～6世紀

今年8月に群馬県三ツ寺遺跡で掘り出された埴輪の跡が発見され、埴輪で表現された豪族の屋敷と類似のものではないかと新聞で報道されました。

松野真跡もこのような豪族の屋敷跡ではないかと考えられます。今回の発見は、全国で2例目です。

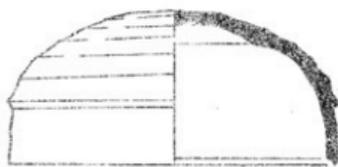
竪穴式住居の奥跡は、全国的に数多く発見されていますが、豪族の生活の場がわかる例は数少ないため、古墳時代の社会構造を知るうえで重要な資料になるものと考えています。

また、松野遺跡では弥生時代前期の土器が出土しているところから、この付近にそのころの遺跡が存在していることは確実です。弥生時代後期の井戸土器が発見されていますので、この時期の集落が存在すると考えられます。

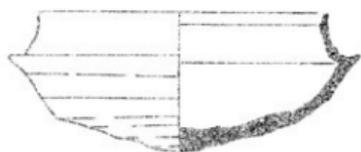
新長田駅の東方500mの地点（神楽町遺跡）では、弥生時代から平安時代にわたる土器が出土していますので、このあたり一帯には長い間、人々が住み続けた遺跡が今なお眠っているものと思われ、今後の調査が期待されるところです。



土坑9杯フタ



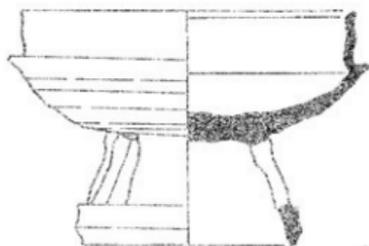
包含器



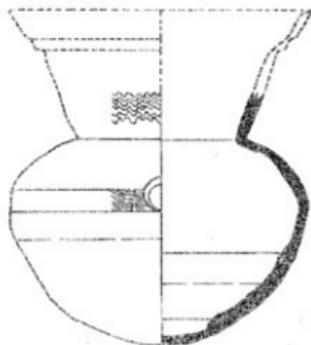
さく1杯身



みせ杯身



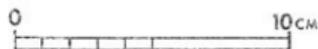
土坑4高杯



土坑5 ぼそろ



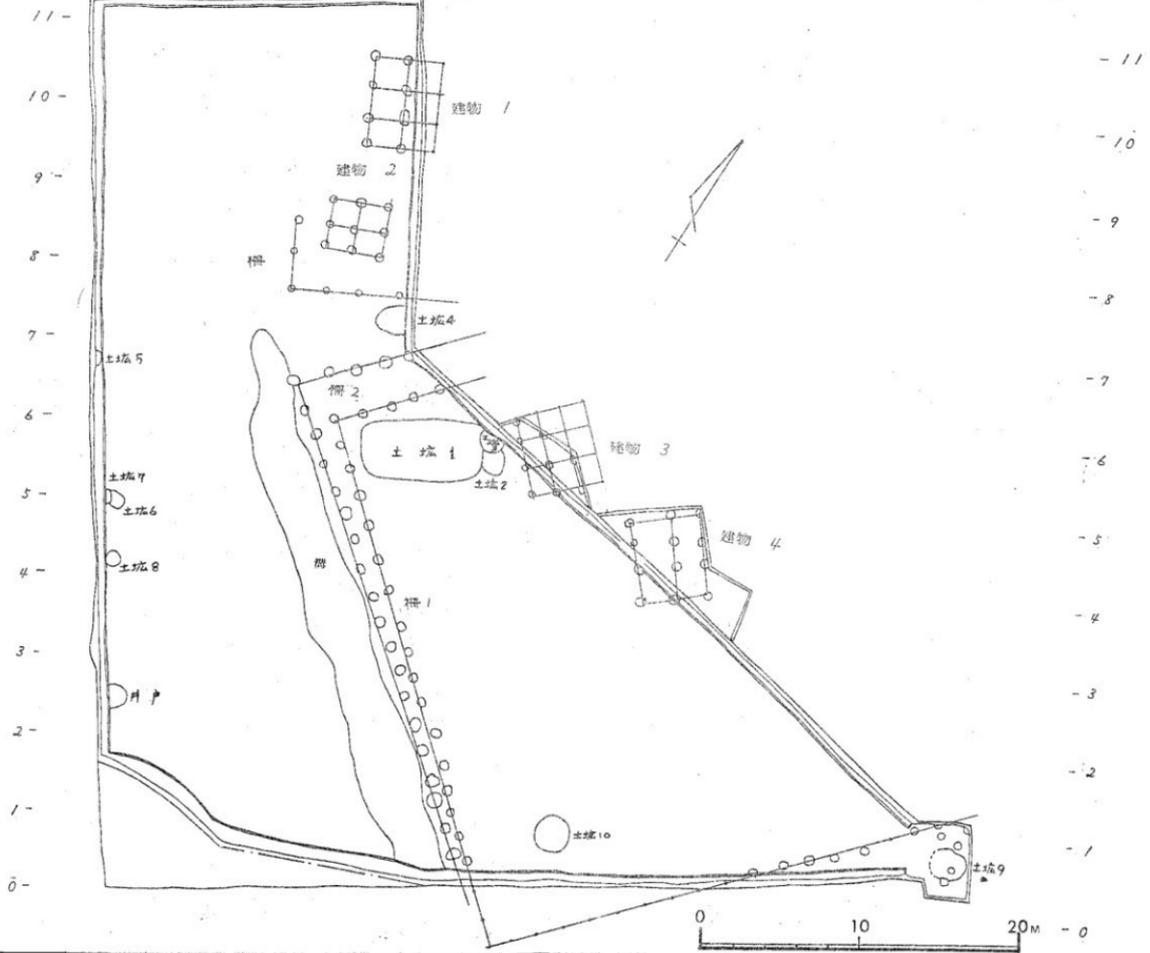
溝内出土カメ



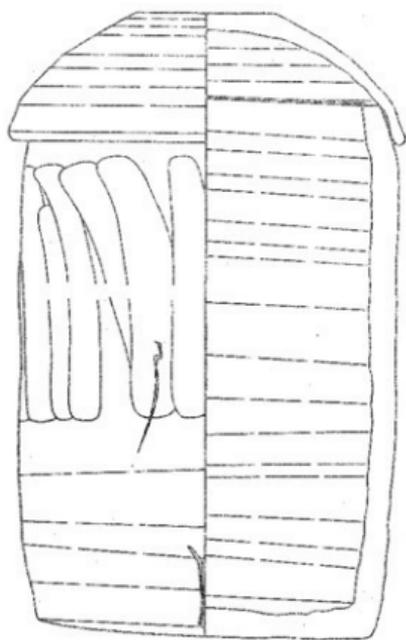
順	遺跡名	時代	備考
1	盤野		
2	坂田遺跡(山古原)	古墳時代前期	円筒 銅鏡 人骨
3	神楽町	弥生前期	埴輪・灰土・銅器土器
4	金伏山古墳	古墳時代中期	古墳跡円形? 円筒埴輪
5	大崎田(山古原)		
6	瀬山町古墳	古墳時代後期	
7	名倉	縄文中期	
8	長徳神社境内	弥生中期	石斧
9	長田神社南	弥生後期	
10	五杉町	縄文後期	
11	周王寺跡(部内遺跡)	銅鏡	
12	会下山	旧石器	ナイフ形石鏢
13	会下山二本松	弥生後期	
14	会下山二本松古墳	古墳時代前期	円筒 埴輪 穴式石室 銅鏡 鉄器 土器
15	会下山二本松古墳跡	平塚	
16	盤野	弥生中期	
17	神楽	弥生中期	
18	瀬山	弥生中期	
19	砂野丸山古墳	古墳時代前期	円筒 埴輪 穴式石室 銅鏡 銅鏡 鉄器 土器
20	神戸大学付属病院境内	弥生 銅鏡	
21	榑木・荒田町	弥生前期・中期	



N M L K J I H G F E D C B



滝ノ奥遺跡現地説明会資料



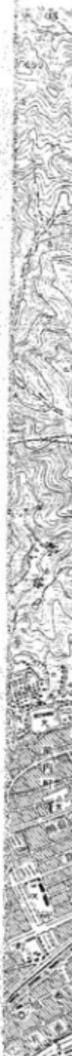
昭和 57 年 / 月 24 日

神 戸 市 教 育 委 員 会

表紙説明

滝ノ奥遺跡出土陶製経筒

滝ノ奥遺跡の発掘調査については、
株式会社大倉開発、株式会社間組の
ご協力を得た。



発掘調査にいたる経過

滝ノ奥遺跡は、神戸市灘区高羽字滝ノ奥に所在し、標高200mの尾根上に存在しています。



かって、当該地からは弥生時代の土器と思
われる土器片が採集され、弥生時代の集落址
が存在するであろうと考えられていました。

ところが、この尾根上にマンションが建設
されることになったため、昭和55年11月
に遺跡確認調査を実施しました。調査の結果、
中世の遺物が多量に出土しました。そのため、
弥生時代の遺跡ではなく、中世の遺跡である
ことがわかりました。

確認調査の結果に基づいて、遺跡の存在す
る約3,000㎡について、昭和56年4月か
ら全面発掘調査を開始しました。

立地

滝ノ奥遺跡が立地しているところは、六甲
山から派生する一つの尾根の頂部です。この
尾根の東西の谷は、石屋川の上流にあたりま
す。

また、国宝に指定されている銅鐸14口、
銅戈7本が出土した桜ヶ丘遺跡は、滝ノ奥遺
跡の北方約300mのところにあります。

滝ノ奥遺跡周辺の 歴史的環境

〈旧石器時代・縄文時代〉

この時代の遺跡は、神戸市内ではあまり知
られていません。

近接する芦屋市では、朝日ヶ丘遺跡（旧石器）、山芦屋遺跡（縄文時代前期）などの遺跡が知られています。

〈弥生時代〉

弥生時代になると、この周辺でもかなりの遺跡が知られています。六甲山系の山腹や尾根上には、伯母野山、金鳥山、会下山遺跡、滝ノ奥遺跡のすぐ南にある桜ヶ丘遺跡B地点など、中期の高地性集落が点在しています。また、この滝ノ奥遺跡のすぐ北にある桜ヶ丘遺跡では、銅鐸と銅戈が発見され、高ヶ森、保久良神社遺跡からも銅鐸や銅戈が出土しています。さらに、六甲山系の山麓には郡家大蔵遺跡、深江遺跡などが知られています。

〈古墳時代〉

この滝ノ奥遺跡の周辺でよく知られている古墳には、史跡処女塚古墳（昭和54、56年度調査）東求女塚古墳、西求女塚古墳、へぼ塚古墳、芦屋市親王塚古墳などが点在しています。また、後期の群集墳では、鴨子ヶ原、岡本梅林、生駒（神戸女子薬大構内）、城山南麓、八十塚などが知られています。

古墳以外の遺跡は、あまり知られていませ

んが、郡家大蔵遺跡の南接した地点で古墳時代の遺跡が確認されています。

〈歴史時代〉

歴史時代以降の遺跡では、郡家大蔵遺跡があげられます。地名の「郡家」が示すように、郡衙に関連した遺跡であろうと思われ、緑釉陶器も出土しています。

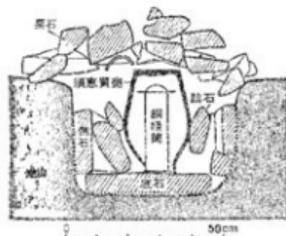
調査の概要

今回の調査で検出された遺構は、経塚1、火葬墓11、掘立建物2棟以上、土坑多数です。

〈経塚〉

経塚とは、仏教経典を埋納し盛り土をしたものです。写経を経筒や経箱におさめ、鏡、刀子、合子、貨幣などと一緒に地中に埋納するのが一般的な経塚です。経塚造立は平安時代中期に慈覚大師が唐から伝えたことが始まりといわれ、末法の世まで経典を保存することを目的としていました。藤原道長が奈良県吉野に金峯山経塚を寛弘4年(1007)に造立したのが最も確実な古い例です。

他の経塚の例から、上部に土や角礫等を盛り上げる例が多いのですが、この経塚では開鑿による為か、礫が基底部にのみ残っています。

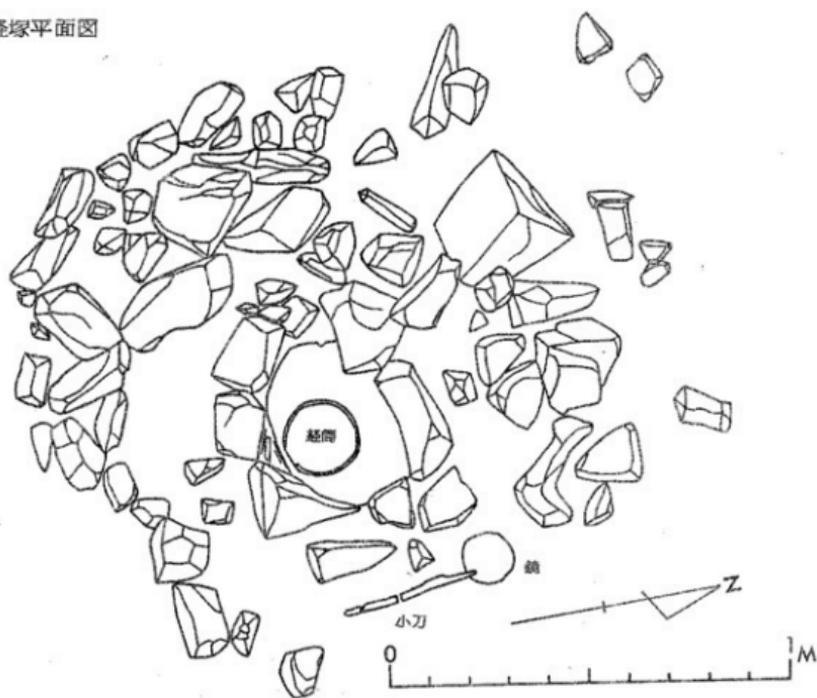


経塚 福岡県武蔵寺第4号経塚断面図

した。その中央部に花崗岩の角礫で部屋をつくり、その中に経筒が埋納されていました。この礫囲いの間に銅鏡4面と銅板1枚が納められていました。経筒の中には、金属製の密教法具が1点検出されました。経筒に納められていたはずの写経は腐蝕したためか発見されませんでした。

一方、経筒埋納施設の外部には、銅鏡1面と小刀1本が置かれていました。

経塚平面図



神戸市内主要経塚一覧

	名称	所在地	出土遺物
播磨	石峯寺経塚	北区淡河町神影	銅製経筒、鏡、血書経、丹波焼外容器
	北坊経塚	北区淡河町神影	陶製経筒
	萩原経塚	北区淡河町萩原	鏡、古銭、土製経筒、須恵器片
	北別僧経塚	北区淡河町北別僧	鏡、陶製経筒
	名谷経塚	垂水区名谷	銅製経筒、土製外容器片
塚	有馬温泉寺経塚	北区有馬町	銅製経筒
	八多吉尾経塚	北区八多町吉尾	銅製経筒、陶製外容器
	二本松古墳経塚	兵庫区会下山	カメ、鏡、念珠玉
	滝ノ奥遺跡	灘区高羽字滝ノ奥	鏡、銅板、陶製経筒、独鈷杵、小刀

「兵庫県の歴史」18号より

〈火葬墓〉

火葬墓が全部で11基確認されています。

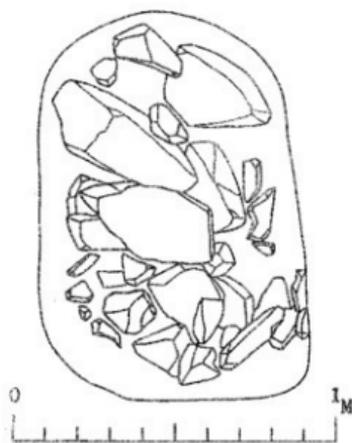
形状は、円形、楕円形、方形と様々ですが、楕円形が主流です（主だった火葬墓の形状と規模は別表参照）。

火葬墓といっても2種に分類できます。土を掘り土坑内で遺体を火葬にするもの（表4、6が代表）と、火葬された後の骨と炭を新たな土坑に埋葬したもの（表5が代表）に分けられます。

また、火葬墓の中から、多量の釘と思われる鉄製品が出土していることから、釘でつくられた木棺を使用していたと考えられます。

火葬墓一覧表

	形状	規模 (cm)		
1	楕円	175 × 85	P-7	1
2	楕円	120 × 75	P-7	2
3	楕円	135 × 60	P-8	
4	円	230 × 180	H-11	1
5	円	80 × 60	H-11	2
6	楕円	120 × 60	H-11	3
7	方形	120 × 80	O-4	1
8	楕円	125 × 60	O-8	1
9	楕円	125 × 60	O-8	2



火葬墓平面図

〈掘立柱建物址〉

現在まだ調査続行中のため、明確に何棟掘立柱建物が建っていたか不明ですが、調査区中央西側に1棟以上、調査区北方の一段高くなったところに1棟掘立柱建物が建っていたことは確実です。

他に多数のピットが検出されましたが、調査も整理作業も現在続行中なので明確な性格づけができません。

出土遺物

出土遺物は、土師器・須恵器・黒色土器・三彩系陶器・灰釉陶器・緑釉陶器・中国陶磁・瓦器・瓦・弥生式土器・青銅製品（銅鏡・古銭・仏具）、鉄製品（クギ）、有茎尖頭器（旧石器時代）、石鏃、五輪塔と多種類で、いろいろな時代にわたった遺物が出土しています。

現在、まだ遺物は整理中で、明確なことはいえませんが、10世紀（平安時代中期）から13世紀（鎌倉時代前期）までの遺物が主体となっています。

金属製品

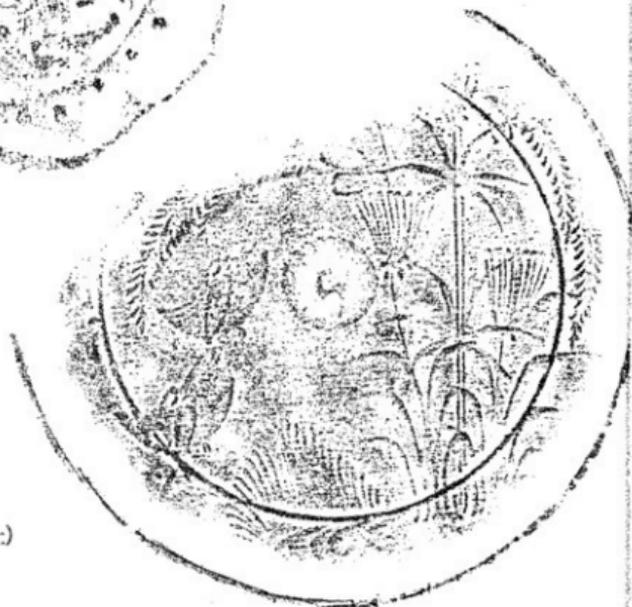
銅鏡は全部で6面出土しています。このうち5面が経塚内から出土しました(図版の拓影参照)。また、経筒内からは密教法具も出土しています。この他に金箔で飾られた文様の青銅製品が出土していますが、今のところ何であるかは不明です。

火葬墓からは釘であろうと思われる鉄製品も多数出土しています。

和鏡拓影



和鏡 (耕作土出土)



和鏡 (経塚内出土)

古 銭

判読不明のものも含め別表のとおり、17
 種33枚出土しています。その多くは北宋
 (960~1127)の古銭で、他には皇朝
 十二銭や明銭も含まれています。

	切 鑄		出土枚数
隆平永宝	796	皇朝十二銭	2
富寿神宝	818	"	1
長年大宝	848	"	3
大平通宝	976	北 宋	1
至道元宝	995	"	1
景德元宝	1004	"	1
天禧通宝	1017	"	1
皇宋通宝	1039	"	1
治平元宝	1064	"	2
熙寧元宝	1068	"	4
元祐通宝	1086	"	1
崇寧重宝	1102	"	1
大觀通宝	1107	"	1
政和通宝	1111	"	1
洪武通宝	1368	明	1
永樂通宝	1403	明	3
寛永通宝		江 戸	1
不明			7

計 33



出土古銭拓影 (実物大)

土師器

同じ土師器の中でも在地性の強いもの(図1-1)、京都など畿内色の強いもの(図1-2)、岡山・広島など山陽地方の影響の強いもの(図1-3,4)に分類することができます。土師器は、その土地で生産するのが普通です。

この西摂地域が、交通の面や経済的な面で周辺地域の影響を受けやすいため各地の土器が共存しているものと考えられます。

須恵器

須恵器は、神出古窯址群や魚住古窯址群で知られる東播地方の須恵器が多量搬入されており、経塚の経筒やその蓋(図2-1.2)も東播地方の製品であると思われます。

图1 出土器物实测图 $s = 1/2$

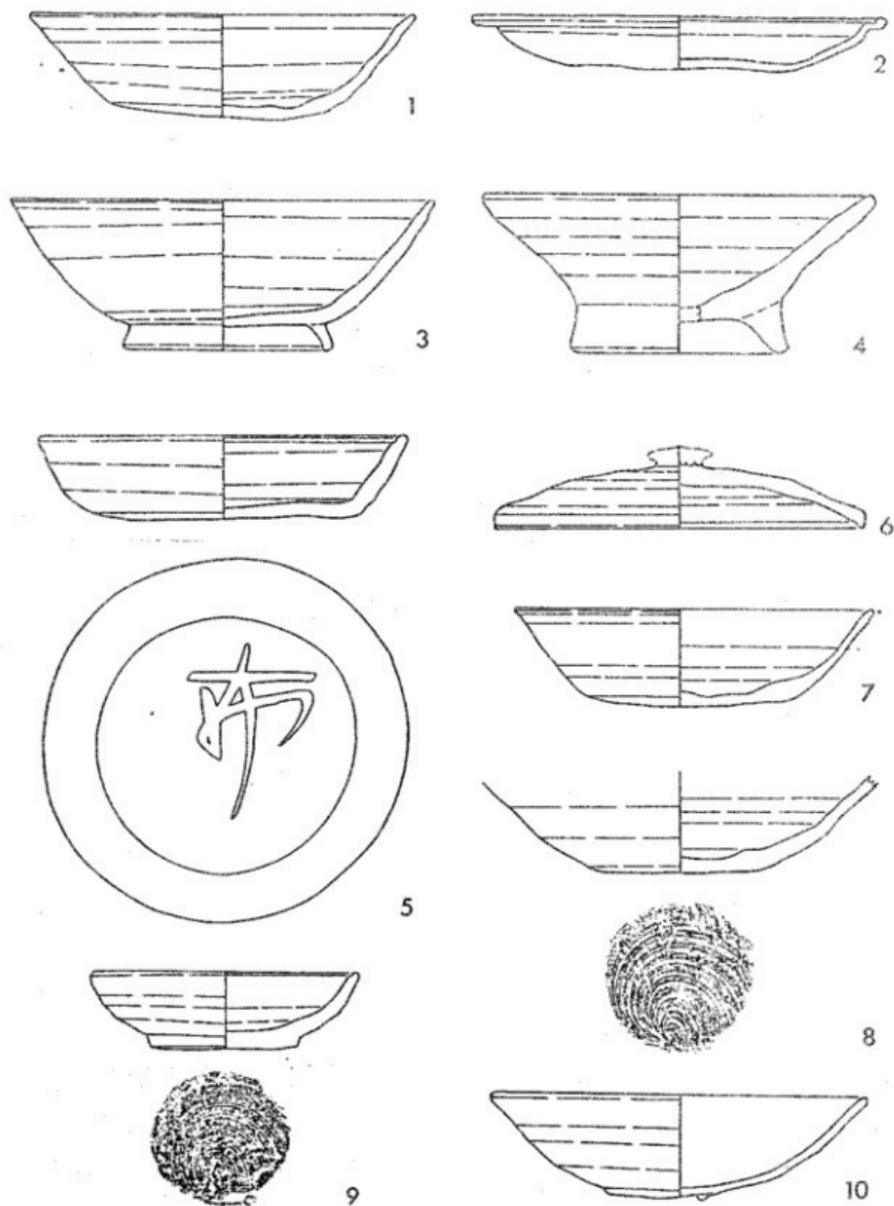
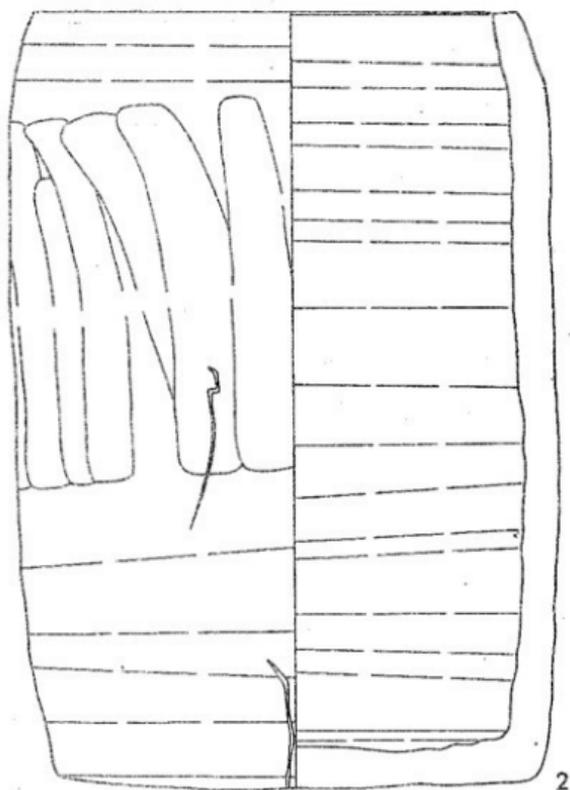
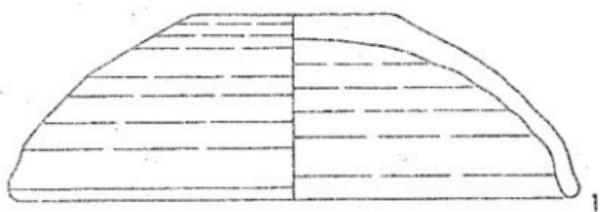
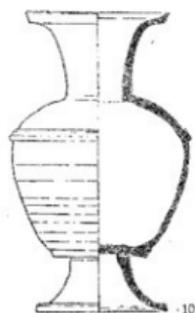
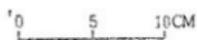


図2 経塚出土経筒裏測図 $s = 1/2$





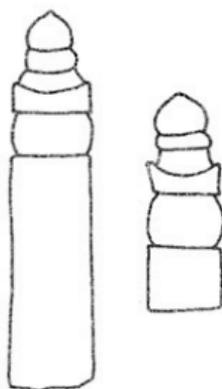
栗原寺西側の塚内出土の土器



他の土器・陶器は出土量が少なく、現在整理中なので詳細は不明です。緑釉陶器や灰釉陶器など、当時高級な容器が、まとめて出土した遺跡は、市内で長田区神楽町遺跡の他知られていません。

特に、灰釉陶器の花瓶は、全国でも奈良県薬師寺西僧坊跡、愛知県八事一堂跡など数例を数えるのみです。

五輪塔



一石五輪塔

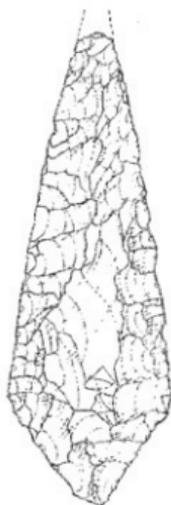
五輪塔は調査区の南の方で210cm×140cmのピットから、まとめて10基、南南東方向を向けて出土しました。すべて一つの石から各部分を削り出す、一石五輪塔です。

五輪塔とは石造塔婆の一つで、下方から四角・円・三角・半円、如意珠形の五輪を積み上げ、地・水・火・風・空の五大を表わしています。密教に由来し、平安時代中期から用いられはじめました。

有茎尖頭器

調査区の南端の堆積土中から旧石器時代の有茎尖頭器が出土しています。他に旧石器時代の遺物は出土していませんし、その遺構も検出されませんでした。

まとめ



有蓋尖頭器

今回の滝ノ奥遺跡の調査により、多くの成果をあげることができました。

第1に、神戸市内で初めて経塚の発掘調査がおこなわれ、その様相が明らかにされました。

第2に、平安時代から鎌倉時代にかけての墓の実態、当時の生活や祭祀に使用していた土器・陶磁器類が明らかにされたことです。

こうした成果に基づいてこの滝ノ奥遺跡全体の性格を考えてみると、

1. 経塚という仏教祭祀遺構の検出
2. 火葬という当時においては特殊な葬送儀礼
3. 緑釉陶器、灰釉陶器等の特殊遺物の出土
4. 五輪塔の出土

などから考えて、仏教寺院 特に密教系の寺院の寺域の一部と考えることができると思われます。

周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	時期	立地	出土遺構・遺物等
1	滝, 奥	旧石器 室 ⁵ 町	尾根	経塚, 火葬墓, 掘立柱建物址, 和鏡, 古銭, 埴器, 独鈷杵
2	伯田野山	縄文後期 弥生中期	山頂 山腹	住居址, 壺棺, 土器, 石器, 鉄器
3	桜ヶ丘B	旧石器 弥生中期	尾根	住居址, 土器, 石器
4	桜ヶ丘	弥生	山腹	銅鐸14口, 銅戈7口
5	桜ヶ丘 (由新田)	縄文前期	山腹	(珠状耳飾)
6	篠原	縄文晩期 弥生中, 後期	山麓	土器
7	郡家大蔵	弥生後期 奈良, 平安		掘立柱建物, 土器
8	赤塚山	弥生中期	山腹	土器
9	荒神山	弥生中, 後期	尾根	住居址, 土坑, 石器, 土器
10	岡本梅林	弥生	山腹	土器, 石器
11	金鳥山	弥生中期	山腹	住居址, 土器, 石器
12	保良神社	弥生中期 奈良, 平安	山腹	土器, 石器, 銅戈, 瓦
13	生駒	弥生	山腹	銅鐸
14	森北町	弥生中 後期	山麓	土器, 石器
15	三条岡山	弥生後期 鎌倉, 室町		土器, 陶器
16	山笠屋	縄文早期		押型文土器, 石器

周 辺 遺 跡 地 名 表

番 号	遺 跡 名	時 期	立 地	出 土 遺 構 ・ 遺 物 等
1	滝, 奥	旧石器 室 ⁵ 町	尾 根	経塚, 火葬墓, 掘立柱建物址, 和鏡, 古銭, 経筒, 独鈷杵
2	伯田野山	縄文後期 弥生中期	山 頂 山 腹	住居址, 土器, 石器, 鉄器
3	榎ヶ丘 B	旧石器 弥生中期	尾 根	住居址, 土器, 石器
4	榎ヶ丘	弥 生	山 腹	銅鐸14口, 銅戈7口
5	榎ヶ丘 (中新田)	縄文前期	山 腹	(球状耳飾)
6	篠 原	縄文晩期 弥生中, 後期	山 麓	土器
7	郡家大蔵	弥生後期 奈良, 平安		掘立柱建物, 土器
8	赤塚山	弥生中期	山 腹	土器
9	荒神山	弥生中, 後期	尾 根	住居址, 土坑, 石器, 土器
10	岡本梅林	弥 生	山 腹	土器, 石器
11	金鳥山	弥生中期	山 腹	住居址, 土器, 石器
12	保良神社	弥生中期 奈良, 平安	山 腹	土器, 石器, 銅戈, 瓦
13	生 駒	弥 生	山 腹	銅鐸
14	森北町	弥生中 後期	山 麓	土器, 石器
15	三条岡山	弥生後期 鎌倉, 室町		土器, 陶器
16	山芦屋	縄文早期		押型文土器, 石器

周 辺 遺 跡 地 名 表

番 号	遺 跡 名	時 期	立 地	出 土 遺 構・遺 物 等	
17	会下山	弥生中 後期	尾 根	漢式三角鍬, 住居址, 墓址 土器, 石器	
18	朝日ヶ丘	旧石器 縄文前期	山 腹	ブレード, 石鍬, 石匙	
19	深 汪	弥 生	扇 状 地	土器, 石器	
20	溜ヶ森	弥 生	山 腹	銅 鐸	
21	坂下山	弥生中期	山 腹	土器, 石器	
22	森 奥	弥生後期	尾 根	土器	
23	森	弥 生	山 腹	銅 鐸	
番 号	遺 跡 名	環 形	規 模 全 長	出 土 遺 物 等	備 考
24	西求女塚	前方後円	東 面 約90m		現 存
25	処女塚	〃	南 面 約69m	葺石, 箱式石棺, 勾玉	〃
26	東求女塚	〃	西 面 約40m	銅鏡6面, 車輪石, 刀	一部残存
27	坊ヶ塚	〃	南 面 約40m	詳細不明	消 滅
28	扁保曾塚	〃	西 面 約60m	銅鏡6面, 石釧, 車輪石, 玉類	〃
29	鴨子ヶ原 群集墳			詳細不明	〃
30	伊賀塚			詳細不明	〃



英山
1480

神戸市
北灘

東神戸港

東みづり倉庫